

東京都葛飾区教育委員会

オンライン生涯学習の推進

～ICTを活用した学びの仕組み作り～

はじめに

令和2年2月、日本中に新型コロナウイルス感染拡大の不安が広がり、「不要不急の外出自粛」が呼びかけられる中、生涯学習課の事業は軒並み中止・延期となりました。このような状況下においても、区民に対し学習の機会を提供するために、ICTを活用した学びの仕組み作りに全力を注いできた2年間の歩みを、振り返ります。

1. 区民の学びを止めないために

コロナ禍で多くの事業が中止・延期となったことをきっかけに、区民の学びを止めないために、「密」を避けながら実施できる方法を工夫した令和2年度の取組を紹介します。

(1) 事業のライブ配信

① ストリートダンス教室の発表会

中学生を対象としたストリートダンス教室では、1年間の練習の成果を披露する場として、例年3月に発表会を開催していますが、令和元年度は新型コロナウイルス感染症の影響により令和2年3月に開催できず延期となっていました。「新しい生活様式」により区施設が使用可能となり、7月に開催することを決定したものの、会場の人数制限もあるため、例年のように関係者に観覧いただくことが難しい状況でした。

そこで、初めての試みとして Zoom のミーティング機能を活用し、発表会の様子をライブ配信することで、保護者などの関係者が来場せずに自宅からご覧いただける態勢を整えました。

② NPO との協働による子ども文化芸術教室

小学生を対象とした音楽教室「うたってみよう、奏でて

みよう、きいてみよう!」は、例年、子どもたちが合唱や合奏を行うところを会場内で保護者が参観するという形で実施してきました。しかし、コロナ禍においては、特に合唱や合奏の際にソーシャルディスタンスを保つ必要があり、会場内の「密」を避けるためには、募集人数を減らした上で、さらに保護者の入場をお断りするしかありませんでした。

そこで、ストリートダンス教室の経験を活かし、保護者が別室あるいは自宅から Zoom で子どもたちの様子を毎回ご覧いただけるようにしました。本事業においても、1年間の成果として最後に発表会が予定されていましたが、これについても保護者には Zoom 越しに披露することとなりました。PC やタブレットを使い慣れていない方にもご覧いただけるよう、同じ建物内の別室でスクリーンに子どもたちの合唱や合奏の様子をリアルタイムで投影しました。

(2) 双方向型オンライン講座

① ストリートダンス教室オンラインレッスン

ストリートダンス教室では、令和2年度よりオンラインレッスンを導入しました。レッスンを Zoom でライブ配信し、自宅からの受講者もカメラをオンにし、講師と受講者が、カメラ越しに双方向のコミュニケーションが取れるようにしまし



た。また、ステップの細かい動きがカメラ越しでもわかるよう、講師の足元をクローズアップした映像を流すなど、オンラインであっても、講師と参加者が一体感を醸成できるような工夫もしました。これにより、遠方の生徒が気軽に受講できるようになっただけでなく、普段は会場参加の生徒であっても、会場に行けない回はオンラインで参加するという選択肢が加わり、利便性が格段に向上しました。

② NPO との協働による子ども文化芸術教室

本講座は新型コロナウイルス感染症の「第2波」が落ち着いた9月から対面でスタートしましたが、12月に「第3波」が到来し、一堂に会して合唱や合奏を行うことが困難な状況に陥りました。しかし、先述のとおりZoomを活用して保護者に参観していただくという素地ができあがっていたため、速やかにオンライン講座へ切り替えるという判断ができました。自宅からカメラをオンにして参加した児童たちに向けて、講師が会場から呼びかけながら、歌や演奏をお届けしました。途中で転居した児童が海外から参加してくれたのは、関係者一同、オンラインのメリットを実感した出来事でした。

③ 団体・サークル支援講座

Zoom 活用のノウハウが蓄積されてきたところで、いよいよ会場とオンラインのハイブリット方式で講座を実施することとしました。また、開催に先立ち、講座申込者を対象に、初心者向けの「Zoom 操作体験会」を開催しました。体験会の講師は職員が務めました。マンツーマンに近い形で丁寧に説明を行ったこともあり、オンライン参加に切り替えた方もいらっしゃいました。講座当日は、Zoom のブレイクアウトルーム機能を活用し、会場だけでなくオンラインでもグループ討議を行いました。非常に好評で、参加者から「今後もリモートで学習したい」という声が聞かれました。

(3) YouTube での動画配信

① 職員対象の動画制作研修

コロナ対策として既存事業の動画化に取り組むにあたり、職員の動画制作スキルをアップさせることが必要不可欠と考え、魅力ある動画作りや、撮影から編集までのテクニックについて初歩から学ぶことを目的に、プロを招いて研修を実施しました。コロナ禍で動画制作を検討している事業課が多いのではないかと考え、全庁的に参加希望者を募ったところ、定員を大幅に超える申し込みがあり、時代に合った区民サービスの提供につながりました。

② 子ども食育クッキング

毎年度、小学生や親子を対象に対面で開催している「子ども食育クッキング」は、応募者多数で抽選になることが多い人気講座ですが、コロナ禍で調理実習室の使用ができず、開催できない状況でした。そこで、在宅でも好きな時間に学んでもらえる方法として、5本の動画を作成しました。これにより、今まで“人見知りで参加できなかった子”や“女子が多くて参加しづかった男子”にも学んでもらえるのではないかと狙いもありました。撮影と編集こそ業者委託したものの、絵コンテ作り、食育に関するクイズのアニメーション作成などは、すべて職員が行いました。第2弾として和菓子の動画をアップした際には、日本の伝統を外国の方にも知っていただきたいという思いから英語字幕をつけましたが、その翻訳作業を行ったのも職員です。動画の長さを2分前後とすることで、ちょっとした隙間時間に、気軽に見ていただけるよう工夫しました。苦勞の甲斐あって、再生回数は延べ7,000回に迫る勢いとなっています。



③ テントの組み立て方

動画作成のノウハウを得たところで、感染リスクの低い屋外レジャーとしてキャンプが注目されていることを踏まえ、貸出用アウトドア器材についても動画でPRすることとしました。貸出器材の中でも組み立てが難しい「テント」について、職員が実演した動画を公開したところ、再生回数3,000回を超える人気動画となっています。

2. 利用しやすい学習機会の提供

コロナ禍をきっかけにオンライン化を加速させた令和2年度は、“誰ひとり取り残さない”ことを目指し、区民が安心して学べる仕組みを構築した結果、対面での事業よりも、

さらに多くの方に学びの機会を提供することができました。今やオンラインの活用は「感染症対策」ではなく「ニューノーマル」となっています。時代のニーズに合わせた行政サービスを提供するという観点から、持続可能な事業として、新たな学びの形を広げた令和3年度の実績を紹介します。

(1) note

生涯学習課では、場所や時間にとらわれず、どなたでも学べる機会を提供するポータルサイトの構築を進めていますが、個別にシステムを開発することで、生涯学習事業に必要な機能を装備できるようにするためには、コストが高くなるのが課題となっています。そこで、第一歩として、コストがかからない既存のASPサービス「note」を活用したホームページを作り、ノウハウを蓄積した上で、ポータルサイトの本格導入までの道筋をつくることとしました。株式会社noteが令和2年から「地方公共団体支援プログラム」として無償提供している、自治体のオウンドメディア構築SaaS「note pro」での運用です。構築にかかる初期費用も保守等のランニングコストもかからない上、無償でnoteディレクターによるアドバイスや運用フォローアップという支援を受けることができます。

これまで生涯学習課として発信してきた情報は、各事業の説明や、講座の募集案内にとどまっていた。広報紙やホームページに載せられない、職員と共に講座を作り上げてくださる方々の熱意や、講座当日を迎えるまでのワクワク感を区民の皆様とシェアするために、令和3年10月からブログによる情報発信を開始しました。noteでは、事業にかける思いなど、過程や裏側を語るができます。また、操作も非常に簡単なので、伝えたいことを発信するまでの期間を短縮でき、スピード感ある情報発信ができるようになりました。



(2) 事業のライブ配信

① Zoom ミーティングによるライブ配信

前年度に培ったノウハウを活かし、令和3年度は「かつしか区民大学」の講座で積極的にZoomを活用することで、オンライン受講が可能な講座を増やしました。区民運営委員会企画講座「葛飾の魅力再発見 “葛飾花しょうぶと菖蒲園の歴史”」は、もともと会場とオンラインの併用で実施予定でしたが、「第4波」により会場開催を急きょ取りやめる事態となり、オンライン開催のみとなりました。「かつしか区民大学」には、若い世代の受講者が少ないという課題がありますが、本講座の参加者から「若い女性が1人で参加すると浮いてしまわないかと不安だったので、参加者同士の姿が見えないオンライン開催は参加しやすかった」との感想が寄せられ、課題解決の糸口が見えてきました。区外からの申し込みもあり、葛飾区をPRする機会にもなったと考えています。このほか、「司法書士が教える“相続”の知識」「知って得する年金講座」「北島尚志講演会 “遊びは子どもの主食です。子どもの時間を奪わないために”」などの講座についても、会場とオンラインの併用で実施しています。

② YouTube によるライブ配信

令和3年9月のかつしか区民大学特別講演会「“ダメ!”だけでは“だめ” ネットやゲームとの付き合い方」は完全オンライン開催で、初めてYouTubeによるライブ配信を行うこととしました。ただし、「かつしか区民大学」には単位認定制度があり、講座の受講者管理を行う必要があります。「公開」が原則の葛飾区公式YouTubeチャンネルでは、不特定多数が視聴できてしまうため、参加者を把握することができません。そこで、生涯学習課で新たに公式YouTubeチャンネルを立ち上げるに至りました。このチャンネルでは、原則として動画を「限定公開」とし、申込者のみにURLを通知することで、受講者管理を行うこととしています。なお、本講演会では講師にリモートでご出演いただきました。区施設にいる司会者と、遠方の講師とが参加しているZoomミーティングをライブストリーム配信するという方法を採用しました。

(3) YouTube でのオンデマンド配信

11月の特別講演会「意識に届くデザイン～サインデザインとピクトグラム～」と、2月の特別講演会「ユーモアイラストで楽しく紐解くSDGs」に関しても、会場とオンライン併用での開催を検討しましたが、来場者の多い特別講演会

で、会場対応が手薄になることを避けるため、職員の人手が割かれるライブ配信ではなく、講演の録画を後日期間限定でYouTubeにアップする「オンデマンド配信」を実施することとしました。これにより、応募者多数で落選となっていた申込者も、後日YouTubeで視聴することが可能となり、より多くの方に学びの機会を提供できるようになりました。これらの講演会についても、受講者管理のため、先述の生涯学習課公式YouTubeチャンネルに「限定公開」でアップします。

(4) YouTubeでのオンライン講座

令和2年度に公開した「子ども食育クッキング」や「テントの組み立て方」の動画は、どなたにでもご覧いただけるよう、葛飾区公式YouTubeチャンネルに公開していますが、新たな取り組みとして、かつしか区民大学単位認定講座に、YouTube上で動画を視聴するオンデマンド形式の講座を試験的に導入しました。オンライン用に事前に動画を収録し、期間限定で「生涯学習課公式YouTubeチャンネル」に限定公開し、都合の良い時間に受講してもらうというものです。令和3年度は「子どもの自己肯定感を高める子育て～我が子に教える命の教育～」と「和食文化入門（全3回）」の公開を控えています。特に後者は、録画のメリットを活かし、ロケ先での取材映像も盛り込んだ内容を予定しています。

..... おわりに

オンラインを活用した講座展開や、noteでの情報発信を通じて、これまで生涯学習課の講座を受けたことのない層にも興味を持っていただき、学びを通じたつながりの輪が広がることを期待しています。学んだ成果を地域での活動に活かし、さらなる課題解決のために新たに学ぶというような、学びと活動を好循環させるための「つながりづくり」に寄与できるような講座や記事を増やしていく予定です。

さらに、ポータルサイトの一環として、ご自身が受講した講座の履歴を管理できるマイページ機能の構築など、利用者に寄り添ったサービスの提供を目指しています。

また、オンライン化を進めていくにあたり、デジタルに対するリテラシーを職員全体で向上させていく必要も生じています。DX時代の人材戦略として、OJTではなく“リスク

リング”が注目を集める昨今、必要な知識を身につけるきっかけ作りとして、ITパスポート試験にも挑戦しており、すでに数名の合格者を輩出しています。職員同士で試験対策の情報交換を行う中で、「デジタルに関することは特定の職員だけが詳しくれば良い」という考えが払拭され、苦手意識が軽減しつつあります。講座の企画段階で、オンライン対応ができないか必ず検討するようになり、時代に合わせた学びの手法の整備が進んでいます。